

「最短突破 ディープラーニング G 検定（ジェネラリスト）問題集」正誤表 第2版 第5刷

書籍の内容に誤りのあったことを、本書をお買いあげいただいた読者の皆様および関係者の方々に謹んでお詫びいたします。

（2025年9月8日更新分）

p.184 問7 下から2行目

誤	3. Atorus Convolutionと呼ばれることもある。
正	3. Atrous Convolutionと呼ばれることもある。

p.202 問6 上から6行目

誤	必要なパラメータである
正	重要 なパラメータである

（2025年5月16日までの公開分）

p.249 上から2行目

誤	また、Atorus Convolutionと呼ばれる
正	また、 Atrous Convolutionと呼ばれる

p.250 下から2行目

誤	選択肢1の説明はDilated (Atorus) Convolutionの説明です。
正	選択肢1の説明はDilated (Atrous) Convolutionの説明です。

p.226 上から2行目

誤	縦軸は訓練誤差（エラー）を示しています。
正	縦軸は 汎化 誤差（エラー）を示しています。

p.226 「▼二重降下現象（エポック数を固定）」のグラフの縦軸

誤	訓練誤差（エラー）
正	汎化 誤差（エラー）

p.271 上から9行目

誤	モンテカルロ木探索 は、ある状態から行動選択を繰り返して報酬和を計算するということを複数回行った後、報酬和の平均値をある状態の価値とする価値推定方法です。
正	モンテカルロ木探索 は、 探索木を構築しながら価値の高いノードを選択する方法です。探索回数が少ない・勝率が高いノードを優先的に探索することで効率化が図られています。

p.327 下から 3 行目

誤	選択肢1のseq2seqは第5章のRNNのモデルの1つです。p. 263の解説を参照してください。選択肢2のpix2pixも
正	選択肢2のseq2seqは第5章のRNNのモデルの1つです。p. 263の解説を参照してください。選択肢1のpix2pixも

以上

技術評論社 書籍編集部